





類字名所和歌集索引

千艘秋男 編
谷地快一

笠間索引叢刊 59

『類字名所和歌集索引』目次

I 初句索引	1
II 四句索引	85
III 歌枕索引	163
IV 地名索引	209
『類字名所和歌集 本文篇』正誤表	337
あとがき	338

『類字名所和歌集本文篇』正誤表

〔歌番号〕		誤	正	〔歌番号〕		誤	正	〔歌番号〕		誤	正	
三六一	年過て住し	年へて住し	三〇五	かりにこえ	三〇五	かりにこは	五九三	花か雲かと	五九三	み渡せば	五九三	花か雲かと
三〇六	よそし成ぬる	よそに成ぬる	三〇七	神さへぬれて	三〇七	袖さへぬれて	五九三	ありそに道ふ	五九三	ありそに通ふ	五九三	ありそに通ふ
一九七	花咲わたす	花吹わたす	三〇九	かさゝき山に	三〇九	かさゝき山に	六〇三	山まり外に	六〇三	山より外に	六〇三	山より外に
三〇六	三室山	三室山	三〇九	かきゝ山に	三〇九	かきゝ山に	六〇六	川分衣	六〇六	山分衣	六〇六	山分衣
二〇〇	待よ更行	待よ更行	三〇九	有明のうらに	三〇九	有明のそらに	六〇八	峯間によとむ	六〇八	岩間によとむ	六〇八	岩間によとむ
二〇四	いたはり廣き	はたはり廣き	三二〇	しらはしの	三二〇	しらいしの	六〇九	神の宮ぬも	六〇九	神の宮ぬも	六〇九	神の宮ぬも
二〇七	けこえくれは	けさこえくれは	三二五	おりし柱の	三二五	おりし桂の	七三〇	時も雨露も	七三〇	時雨も露も	七三〇	時雨も露も
二〇三	萬代ふき	萬代ふへき	三二五	不盡	三二五	不審	七三三	御村山	七三三	御射山	七三三	御射山
二八六	秋を過て	秋をへて	三二五	人しれる	三二五	人しれす	七三七	水尾の杜山	七三七	水尾の杜山	七三七	水尾の杜山
二九三	よそし成ぬる	よそに成ぬる	三二五	たふの浦の	三二五	おふの浦の	七三七	みおの杜木は	七三七	みおの杜木は	七三七	みおの杜木は
一九七	花咲わたす	花吹わたす	三二五	なくます神の	三二五	なくます神の	七三七	神の宮ぬも	七三七	神の宮ぬも	七三七	神の宮ぬも
三〇六	三室山	三室山	三二五	なさやゝみなん	三二五	なさやゝみなん	七三七	水尾の杜山	七三七	水尾の杜山	七三七	水尾の杜山
三〇六	三室山	三室山	三二五	さてやゝみなん	三二五	さてやゝみなん	七三七	御村山	七三七	御射山	七三七	御射山
三〇六	三室山	三室山	三二五	雪ふりにけり	三二五	雪ふりにけり	七三七	〔名所〕御村山	七三七	〔名所〕御村山	七三七	〔名所〕御村山
三〇六	三室山	三室山	三二五	かけたに	三二五	かけてたに	七三七	みおの杜木は	七三七	みおの杜木は	七三七	みおの杜木は
三〇六	三室山	三室山	三二五	有明のうらに	三二五	有明のそらに	七三七	神の宮ぬも	七三七	神の宮ぬも	七三七	神の宮ぬも
三〇六	三室山	三室山	三二五	しらはしの	三二五	しらいしの	七三七	水尾の杜山	七三七	水尾の杜山	七三七	水尾の杜山
三〇六	三室山	三室山	三二五	おりし柱の	三二五	おりし桂の	七三七	御村山	七三七	御射山	七三七	御射山
三〇六	三室山	三室山	三二五	不盡	三二五	不審	七三七	時も雨露も	七三七	時雨も露も	七三七	時雨も露も
三〇六	三室山	三室山	三二五	人しれる	三二五	人しれす	七三七	御村山	七三七	御射山	七三七	御射山
三〇六	三室山	三室山	三二五	たふの浦の	三二五	おふの浦の	七三七	水尾の杜山	七三七	水尾の杜山	七三七	水尾の杜山
三〇六	三室山	三室山	三二五	なくます神の	三二五	なくます神の	七三七	みおの杜木は	七三七	みおの杜木は	七三七	みおの杜木は
三〇六	三室山	三室山	三二五	なさやゝみなん	三二五	なさやゝみなん	七三七	神の宮ぬも	七三七	神の宮ぬも	七三七	神の宮ぬも
三〇六	三室山	三室山	三二五	さてやゝみなん	三二五	さてやゝみなん	七三七	水尾の杜山	七三七	水尾の杜山	七三七	水尾の杜山
三〇六	三室山	三室山	三二五	雪ふりにけり	三二五	雪ふりにけり	七三七	御村山	七三七	御射山	七三七	御射山
三〇六	三室山	三室山	三二五	かけたに	三二五	かけてたに	七三七	〔名所〕御村山	七三七	〔名所〕御村山	七三七	〔名所〕御村山
三〇六	三室山	三室山	三二五	有明のうらに	三二五	有明のそらに	七三七	みおの杜木は	七三七	みおの杜木は	七三七	みおの杜木は
三〇六	三室山	三室山	三二五	しらはしの	三二五	しらいしの	七三七	神の宮ぬも	七三七	神の宮ぬも	七三七	神の宮ぬも
三〇六	三室山	三室山	三二五	おりし柱の	三二五	おりし桂の	七三七	水尾の杜山	七三七	水尾の杜山	七三七	水尾の杜山
三〇六	三室山	三室山	三二五	不盡	三二五	不審	七三七	御村山	七三七	御射山	七三七	御射山
三〇六	三室山	三室山	三二五	人しれる	三二五	人しれす	七三七	水尾の杜山	七三七	水尾の杜山	七三七	水尾の杜山
三〇六	三室山	三室山	三二五	たふの浦の	三二五	おふの浦の	七三七	みおの杜木は	七三七	みおの杜木は	七三七	みおの杜木は
三〇六	三室山	三室山	三二五	なくます神の	三二五	なくます神の	七三七	神の宮ぬも	七三七	神の宮ぬも	七三七	神の宮ぬも
三〇六	三室山	三室山	三二五	なさやゝみなん	三二五	なさやゝみなん	七三七	水尾の杜山	七三七	水尾の杜山	七三七	水尾の杜山
三〇六	三室山	三室山	三二五	さてやゝみなん	三二五	さてやゝみなん	七三七	御村山	七三七	御射山	七三七	御射山
三〇六	三室山	三室山	三二五	雪ふりにけり	三二五	雪ふりにけり	七三七	〔名所〕御村山	七三七	〔名所〕御村山	七三七	〔名所〕御村山
三〇六	三室山	三室山	三二五	かけたに	三二五	かけてたに	七三七	みおの杜木は	七三七	みおの杜木は	七三七	みおの杜木は
三〇六	三室山	三室山	三二五	有明のうらに	三二五	有明のそらに	七三七	神の宮ぬも	七三七	神の宮ぬも	七三七	神の宮ぬも
三〇六	三室山	三室山	三二五	しらはしの	三二五	しらいしの	七三七	水尾の杜山	七三七	水尾の杜山	七三七	水尾の杜山
三〇六	三室山	三室山	三二五	おりし柱の	三二五	おりし桂の	七三七	御村山	七三七	御射山	七三七	御射山
三〇六	三室山	三室山	三二五	不盡	三二五	不審	七三七	時も雨露も	七三七	時雨も露も	七三七	時雨も露も
三〇六	三室山	三室山	三二五	人しれる	三二五	人しれす	七三七	御村山	七三七	御射山	七三七	御射山
三〇六	三室山	三室山	三二五	たふの浦の	三二五	おふの浦の	七三七	水尾の杜山	七三七	水尾の杜山	七三七	水尾の杜山
三〇六	三室山	三室山	三二五	なくます神の	三二五	なくます神の	七三七	みおの杜木は	七三七	みおの杜木は	七三七	みおの杜木は
三〇六	三室山	三室山	三二五	なさやゝみなん	三二五	なさやゝみなん	七三七	神の宮ぬも	七三七	神の宮ぬも	七三七	神の宮ぬも
三〇六	三室山	三室山	三二五	さてやゝみなん	三二五	さてやゝみなん	七三七	水尾の杜山	七三七	水尾の杜山	七三七	水尾の杜山
三〇六	三室山	三室山	三二五	雪ふりにけり	三二五	雪ふりにけり	七三七	御村山	七三七	御射山	七三七	御射山

編者略歴

千艘 秋男 (せんそう あきお)
(旧姓 村田秋男)

昭和 50 年 東洋大学大学院博士課程中退
現 職 東洋大学文学部講師および千葉大学講師
主要編著書 『寝覚記』(古典文庫 昭55刊)
『類字名所和歌集 本文篇』(笠間書院 昭56刊)
『三條西實隆集 第1巻』(私家版 昭63刊)

谷地 快一 (たにち よしかず)

昭和 55 年 東洋大学大学院博士課程修了
現 職 東洋大学短期大学助教授および東洋大学文学部講師
主要編著書 『芭蕉講座』第4巻(共著)(有精堂 昭58刊)
『燕村翁文集』(笠間書院 昭61刊)
『俳諧三部集・夏秋集』(共編)(古典文庫 昭61刊)

類字名所和歌集索引

●笠間索引叢刊 59

昭和 63 年 12 月 30 日初版発行

定価11,000円

検印
省略

編者 © 千艘 秋男
谷地 快一

発行者 池田つや子

発行所 有限会社 笠間書院

〒 101 東京都千代田区猿楽町2-2-5

☎ 03-295-1331(代) 振替東京 1-56002

3381-852059-0924

科学図書印刷・手塚製本所

(本文用紙：中性紙使用)